

ダム等管理フォローアップ

意見を受けての報告書修正対応表

【高山ダム】

平成28年 3月

水資源機構  
関西・吉野川支社

## 【高山ダム】

### 1. 事業の概要

特になし

### 2. 治水

特になし

### 3. 利水

特になし

### 4. 堆砂

特になし

### 5. 水質

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
5.6 水質保全対策施設の評価  本編 P5-149	<ul style="list-style-type: none"> <li>流入河川（名張川本川）の流入栄養塩負荷の削減は、現実的に厳しい対応になるものと思われるが、ダム管理者としての見解は如何なものか。</li> <li>流入水質の改善が進んでいない状況については、報告書p. 1-46記載の「(3)下水道整備状況」と関連付けて記載した方がよい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム管理者として、主体的に対応し得るのは貯水池内での富栄養化対策と考えている。一方、長期的には、流域内からの流入栄養塩負荷削減という対策もあるが、これについては、ダム管理者だけでは対応が難しく、流域内の下水道普及率、接続率の増加等、各種の取組が必要である。</li> <li>→定期報告書p5-149の記載を以下のとおり修正。</li> <li>「一方、長期的な目標の達成率は0%となっているが、この原因は、流域の下水道普及率が低い（p. 1-46参照）等、流入水質の改善が進んでいないことにある。」</li> </ul>	—

### 6. 生物

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
6.3 生物の生息・生育状況の変化の検証  本編 P6-124	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖周辺の群落面積の経年変化を見ると、開放水面の面積割合に著しい変化が見られる。これは調査範囲に変更があったということか。また、調査範囲に変更があったのであれば、ダム湖周辺とダムとの関係が不明瞭なものとならないか。</li> <li>群落面積等の経年変化を示すことで、ダム管理者として何を伝えたいのか整理する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成18年度の国勢調査マニュアル改訂に伴い、平成22年に実施したダム湖環境基図作成の範囲を変更（貯水池上流域まで拡大）している。ダム湖周辺とダムとの関係に誤解を生じないように適切な表現に改める。</li> <li>→定期報告書p6-124に面積割合グラフのほか、面積グラフを追加</li> </ul>	群落面積等の経年変化を示すことで、経年的な分布状況等に大きな変化がないことを伝えたいと考えた。指摘を踏まえ、今後、意識した整理を行っていく。
6.3 生物の生息・生育状況の変化の検証  本編 P6-125, 126	<ul style="list-style-type: none"> <li>ダム湖周辺において、これまで確認されていなかった外来種群落（オオカナダモ群落及びアレチウリ群落）の侵入が確認されている。これらの群落については、初期の対応が重要であるが、何らかの対応を考えているのか。また、当該群落が分布する場所により対応の難易度が異なるが、対応は可能であると考えているのか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>オオカナダモ群落及びアレチウリ群落については、貯水池上流域で確認している。現段階では、対応可能な場所に分布しており、抜き取り等による対策を検討している。</li> </ul>	外来種群落の生育状況、分布域について継続して監視（状況に応じて抜き取り等駆除を検討）していく。

### 7. 水源地域動態

特になし

### 8. その他

項目	意見	整理状況	今後の対応方針
	<ul style="list-style-type: none"> <li>高山ダムは、木津川の土砂管理を考えると鍵となる重要な施設である。今後、木津川の土砂管理について、より精度をあげた十分な議論を進めてもらいたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>委員会での意見を踏まえ、木津川の土砂管理を含めた下流河川の環境保全等について、関係機関と連携した議論・取組を進めていきたい。</li> </ul>	—